



幸樹

こう じゅ

第 104 号

2023 年 11 月 1 日



ホームページ



職員募集

発行・一般社団法人幸樹会「幸樹」編集委員会

……………幸樹会事業所……………

からたち薬局・介護ショップからたち ☎047-710-2785

あんず訪問看護ステーション ☎047-701-5559

あんず居宅介護支援事業所 ☎047-701-5558

ケアステーションゆず ☎047-701-5506

看護小規模多機能型居宅介護さんしょう ☎047-710-0331

幸樹会本部 ☎047-701-7550

〒270-2254 千葉県松戸市河原塚 411-1 幸樹会館



絵・高橋 聖大

本庄坦さんにお聞きしました

本庄坦さんと初めてお会いしたのは、今から4年前の令和元年の夏でした。当時所属していた、あんず居宅介護支援事業所に勤務していた時にお会いし、しっかりした声で、「本庄です。」と自己紹介をいただいた事を覚えています。

(聞き手:さんしょう副所長 岡本健吾)

それから、4年、担当のケアマネとして離れることもありましたが、今は、看護小規模多機能さんしょうのケアマネとして担当させていただいています。今まで、ご本人の若い頃のお話などは、断片的にしか伺っていなかったため、インタビューが良い機会と思い、話を伺いました。「東京の墨田、四つ木橋の近くで生まれたけど、すぐ秋田に疎開したよ。」昭和20年1月という終戦直前の混沌としたさなか、物心付く前に引っ越しをして、秋田で青春時代を過ごされたそうです。「子供の頃は学校がとにかく嫌いだったよ。家が貧乏でね。中学出たらとにかく働こうと思って。」と子供の頃の思い出を何うと苦労した印象が伺えました。「17歳の頃、一家で東京に戻ってきて、親族が営む印刷会社で働くことになった。高校も中退して。それと同時に家も出たよ。20歳過ぎに、今で言うところのオフセット印刷の水道橋の会社に入った。小さな会社だったけど、社長から現場を任せて貰うくらいまで頑張ったよ。40代の頃は、毎日のように職場の仲間と神田に飲みに行ってたよ。そういう時代だったね。そこは、51歳の時、病気で倒れるまで勤めていたんだ。妻とは、そこで知り合ったんだ。その会社でタイプライターをやっていた。4.5年働いたかな。20代前半に同棲を始めたんだけど、子供ができたら、いつの間に籍を入れられていたよ(笑)。子供は、その長男と、その下にもう一人次男がいたけど、今は音信不通だな。」

【51歳のとき転機が訪れる】

「小脳出血は51歳の時だった。2,3年、あちこちの病院を転々としたよ。山梨の石和温泉病院ということでは、毎日湯に浸かってリハビリしていた。退院した矢先、「あたし出ていくけど、あんたどうする？」と妻に言われ、途方に暮れたよ。なにしろ、仕事もできない身体だったから。妻とは離婚した。54歳の時だったか。」「離婚後は、次男と二人で、新松戸にアパートを借りて住み始めた。小脳出血の後遺症でふらつきや手の震えがあって仕事ができず、次男を連れ自分が勤めていた会社に行き、こいつを使って貰えないかと社長に持ちかけた。半年位働いたんじゃないかな。」「ある日、次男が夜中に家を出ていったよ。それから音信不通。」「ある日、自分の部屋でインスタントラーメンを食べようと、コンロに火をつけようとして、誤ってゴミ袋に引火させてしまった。幸いアパートの全焼は免れたが、自分の部屋は燃えて、俺は煙を吸って、救急車で病院に運ばれた。退院した後は、住むところも無い、上野の山に行ったよ。夜になると、アメ横に出て、寝床に使うダンボールを探しに行っていた。半年以上そんな生活をしてきたかな。」

「60歳くらいか。まとまったお金が入った事をきっかけに、今の自宅に住むことを決めたんだ。」その頃は、自宅から、近所のスーパーまで、距離にして1km位、杖をつけて歩いて買い物に行っていたようです。消防署の近くの喫茶店に行ってコーヒー飲んで、帰りに買い物するというのが日課だったようです。「しょっちゅう転んだよ。」手首、肩、膝、腰椎と、色んなところを、転んで骨折を繰り返してきました。50歳の時に健診で糖尿病と診断され、翌年には小脳出血。インスリンも打つようになり、盲腸からの腹膜炎で手術を受け、半年間入院もされています。本庄さん曰く「俺の人生、病院と縁が切れない。」と。現在はさんしょうの登録を行い週2回さんしょうに来られ、入浴や生活リハビリ、他の利用者さんや職員との交流を楽しんでいます。それ以外の日は自宅にヘルパーが来て、身の回りの支援もされています。リハビリスタッフや看護師も定期的に伺って、健康面のサポートをしています。配食弁当も週7日、届けてもらって安否確認してもらっています。何度も転んでは骨折や入院を繰り返し、様々な病気もされましたが「この家が良い。今はもう一人で家から出られないけど、それでも自由がある。」諦めずなんとか自立して暮らしていこうと頑張っている姿に感銘を受けました。人生の酸いも甘いも経験してきた本庄さん。

度重なる困難に直面しても、なんとかなる、と楽観的にやり過ごすことができるのは、それまでの天国と地獄のような人生がそうさせているのではないのでしょうか。

今自分ができることを精一杯しながら一生懸命生きていく姿に、今後もサポートしていこうと心に誓った次第です。



ケアマネジャー の こころ

あんず居宅介護支援事業所ケアマネジャー岩橋多恵子

～決心のときを待って～私たちは日々、すべての人が住み慣れた地域、自宅でその人らしく安心して暮らし続けることを支援しています。ですが、時として生命を優先したり、介護者の体調などの事情で施設入居をお手伝いするこ

ともあります。Aさんもそのお一人でした。Aさんは私が幸樹会に入職して間もなく担当させていただいた長く縁のあった方です。ご主人を早くに亡くされ、息子さんと二人暮らしでした。物忘れなど見られるようになり、心配した友人たちが地域包括支援センターに相談し介護保険サービスを利用するようになりました。当初は掃除や調理などヘルパーさんと一緒に行なっていましたが、「自分でできている」という思いから、あまり積極的ではありませんでした。ある夏、同居の息子さんが急逝されました。Aさんは悲嘆に暮れ、ますます支援を受入れられなくなってしまいました。その後、後見人がつき、今後のことを相談しました。ヘルパーも再開し、デイサービスに通い、あなず訪問看護で体調の確認やお話の傾聴をしました。周囲の支援でAさんは徐々に元気や日常生活を取り戻していきました。一方で物忘れの症状は少しずつ進んでいきました。友人たちや後見人は心配し、早い施設入居を望みました。Aさんにはご主人が残してくれた思い出のある家を「自分が守らなければ」という強い意志がありました。支援を受入れられれば、まだまだAさんにはできることがたくさんありました。一人で過ごすことが寂しいときはショートステイを利用しました。4人部屋で「夜は修学旅行のようにおしゃべりした」と、他の方と過ごすことも悪くないと思い始めました。すぐに入居できるわけではないのでグループホームの申込みだけはしておきました。Aさんの尊厳やできることを大切にしてくれる施設を選びました。それでも「私が施設に入ればみんなが安心すると思う」と、まだ周りの方を気遣う言葉が聞かれました。訪問のたびに少しずつAさんの心境の変化を感じました。あるとき「そろそろ行ってもいいかなと思って」と仰いました。そのタイミングでグループホームの空きが出て、入居日が決まりました。最後のご自宅訪問の日、Aさんから「あなたが私の気持ちをよく理解してくれたから、こうしていられた」との言葉がありました。Aさんは人に合せられる気遣いのできる方ですが、それは心からの言葉だと受け留めています。周りがどんなに勧めても、その方自身が決心できなければ、その後の生活に希望が持たなくなってしまいます。これからもご本人の意向をしっかり伺い、自己選択・自己決定ができるよう支援していきたいと思ひます。

研修医の先生の感想

東京医科歯科大学病院 初期研修医 2年目 小林裕一

あおぞら診療所から研修に伺いました小林裕一です。本日はお忙しい中、ご対応いただき、ありがとうございます。大変有意義な研修となりました。看多機については知識としては知っておりましたが、具体的にイメージはできていませんでした。本日の研修で、看多機は病院よりも自由度が高く、利用者さんの要望に柔軟に対応されているこ

とに気づきました。スタッフの方々も職種に縛られず、利用者さんの多様な要望に対応しているところを見学できました。今後、病院で勤務する際には本日の経験を活かし、退院先について患者さんに助言していきたいと思ひます。またどこかでお会いすることがございましたら、その際はよろしくお願ひ致します。

やまだ共生会訪問&釣り部報告パート①

幸樹会は岩手、山田町の社会福祉法人やまだ共生会へ2013年から東日本大震災復興支援に行っています。初回、震災から1年半の状況を目の当たりにし、言葉も出なかったことを思い出します。幸樹会には釣り部があり、部長の故武井幸徳さんに誘ってもらったのが最初でした。瓦礫だらけの街、基礎だけ残して流された家々、津波が通ったそのままに中が抜けているビル・・・胸がいっぱいになりました。私にいったい何ができるのだろうと無力感を感じましたが、「釣りをして賑やかにすることも支援だ。」という武井さんの言葉に励まされ、船酔いでへろへろになりながら参加したのが初めてでした。それから毎年、船越湾の成田丸、中村船長の船に乗せてもらっています。



左から中野三代子・佐藤照彦理事長・榎本芙美子・村井重士

コロナ禍は訪問することはかなわなかったのですが、電話やお手紙などで、やまだ共生会とは引き続き交流がありました。コロナも落ち着いてきている今年、再開しようと計画しました。今回は、中野三代子（幸樹会）中野夏希（幸樹会）村井重士（すこやか福祉会）榎本芙美子（健和会）の4人で行くことになりました。途中、福島の様子も気になったので、常磐道で福島を通り、仙台を抜けて岩手へ旅路を決めました。福島の様子は来月のパート②で中野夏希よりご報告します。山田町の今の様子は、高い堤防ができ、新しい建物も出来て復興が進んでいるように感じましたが、やまだ共生会の佐藤理事長にお話を伺うと、震災から12年で街の人口は4970人減り、25%の人口減少が起きているとのこと。特に若い世代の人口と子どもが減ってしまいました。働く場所が無いことが原因です。子どもの数は半分以下になり、一時は9校あった小学校は現在3校となり、来

年は2校になるそうです。中学校は1校のみ。高齢化率は震災前の30%から40%に上がりました。50%になるのも時間の問題という状況です。人口減少は三陸の近隣町村でも起こっており、津波の被害の大きかった大槌町では30%減少、高田町では23~24%減少しています。やまだ共生会では障がい者の就労支援事業所を運営しており、主な仕事はリサイクル業です。段ボールの回収やビンやカンなどのリサイクルをしています。社会状況の変化で紙の値段が暴落し、運営は厳しいですが、「へこたれるわけにはいかない」という佐藤理事長の言葉が印象的でした。最近では、漁港の清掃活動も依頼されています。海のゴミを鳥や魚が食べてしまい、環境に悪影響があります。そういうことを減らしていきたいと佐藤理事長は語ります。リサイクルで環境を守る活動をし、清掃で環境美化活動をし、地域に支えられながら、地域に貢献しているやまだ共生会に共感を覚えました。翌日は釣り部の活動。今年も成田丸に乗せてもらいました。全員よく釣れて、私はヒラメを4枚釣りました。(釣果はビリッケツです。) 船全体では、ヒラメ以外にも小さなマグロやブリ、ワラサ、黒ソイなども釣れました。中村船長によると、地球温暖化の影響からか捕れる魚の種類が変わってきたそうです。今までよく捕れていた鮭が捕れなくなり、水温の高いところで生息する魚が捕れるようになったそうです。帰り道は岩手・宮城・栃木・群馬・埼玉・千葉と6県に渡り高速道路を一気に走り(もちろん途中休憩をとり、運転を代わって)家に着いたのは夜中の12時ちょっと前。それから魚をさばきました。6時から海に出ていたので20時間以上動き続けたこととなります。これまでは故武井さんに魚を捌くのをお願いしていましたが、今回はそういうわけにもいかず、車の中でYouTubeの動画を見て、ヒラメのさばき方を学び、50代後半にして魚を5枚におろせるようになったこともこの旅の成果のひとつです。海の命、おいしくいただきました。

手術を受けた際にカテーテルのプラスチックの破損する問題が発生したため、補償を求める事になった。手術器具のプラスチック片が破損し、彼女の心臓に刺さったのだった。こうして補償金は4235クローネになった。デンマーク患者補償協会は、クリステンセンさんが合計4235クローネの苦痛に対する補償を受ける権利があると評価する。デンマーク患者補償協会は、彼女が57日間の闘病期間中の苦痛に対する補償を受けるべきであると評価とし、1日当たりの補償額は220クローネであり、彼女は12,540クローネを受け取る権利があったのだ。しかし、この金額から個人負担金手続き手数料8305クローネを差し引かなければならず、クリステンセンさんは4235クローネを受け取ることになる。手術後は心臓のけいれんや疲労感などを経験した。その症状は、壊れたプラスチックの破片が原因だったと彼女は考えている。恐怖でした。そのプラスチックの破片に何が起こったのか、常に恐怖を感じていました。恐ろしい時期でした」とクリステンセンさんは言う。彼女の経過を追っている記者にも彼女の話をした。彼女は、過去5年間、医療制度で怪我をした後、慰謝料の一部を削られた経験を持つ何千人もの患者の一人に過ぎない。デンマーク患者補償協会の提供した新たな報告書によると、2018年7月の手数料導入以来、負傷した患者はいわゆる自己負担金の手数料として総額約1億デンマーク・クローネを支払っている。多くの患者に大きな打撃これに対し、デンマーク患者各協会やデンマーク議会の複数の政党が批判し、この手数料を撤廃するよう要求している。不合理です。自分の過失でもないのに、医療制度で傷害を負ったから、その手続きの手数を請求されるのです。補償金を得るためにお金を払わなければならないのは筋が通りません」と、ダンスク・ペイティエンターのアネット・ヴァンデル副所長は言う。彼女は、デンマーク患者協会が、自己負担金によって患者が補償金の大半を失うケースをいくつか把握していると説明する。さてどうなりますことか。

デンマーク便り...52
ラスムッセン 京子




医療ミスの訴えに於ける煩雑な事務的手数料。ヘンリエッテ・ハール・クリステンセンは心臓手術の失敗により、

彼女は12,540クローネ(約25万円)の補償を受けた。しかし、その補償金を受け取る前に、彼女は”論争的になっている”手数料を支払わなければならない。そのため、クリステンセンさんの手元には4,235クローネ(約8万4700円)しか残らないという結果になった。その手数料はまったく筋違いです。とクリステンセンさんは言う。クリステンセンさんの場合、昨年オーデンセ大学病院で心臓

八柱学習会のお知らせ

10月の学習会は12名の参加でした。
▼次回学習会予定(「定例日：毎月第3金曜日」)
11月17日(金) 18:00~、あつまーれ幸樹
テーマ:「自分でできるトリアージ 薬剤師の立場からII」
報告 松下泰樹(からたち薬局管理薬剤師・幸樹会理事)
《参加自由》

今月の屋上太陽光発電量は、
1160KWh
幸樹会館電力使用量 4310KWh 自給率 26.91%



職員募集！非営利・働きがいある職場
看護師・介護職員
●無資格の方もご相談を。資格取得支援制度あり
問い合わせ：本部中野まで、☎047-701-7550